

3 揺れてから津波が襲来するまで

高知県では、想定される最大の地震と津波が起こった場合、最大で震度7の揺れが起こった後に、大きな津波に襲われることが想定されている地域もあります。

2011年の東日本大震災では、津波による甚大な被害が発生しましたが、揺れによる建物被害は津波に比べると甚大ではありませんでした。

一方、1995年の阪神・淡路大震災では、神戸市や西宮市の一部地域、密集市街地のエリアでも震度7の地域があり、揺れによる大きな被害が発生しました。建物は倒壊し、火災が発生しても水がない、倒壊した建物に道路がふさがれて消防車も全ての火災には対応できないという状況でした。また、急傾斜地や造成地では土砂が崩れ、至る所で液状化が発生して、路面が大きく壊れた地域もあります。倒壊した建物だけでなく、高架橋もずれて道路をふさいだところもありました。震度7の揺れでなく、震度4や5弱程度の揺れでも、補強されていないブロック塀は倒壊した事例が、過去にはあります。

浸水予測と震度分布は、別々に考えずに、津波が来る前に地震によって市街地が被害を受けて、いつもどおりの津波避難ができない可能性も考えておきましょう。

